



潤那

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零

【Nコード】

N3626Z

【作者名】

潤那

【あらすじ】

ある女性の子育て奮闘記？

出会い

暖炉が煌々焚かれていた屋敷の扉を開けると、突き刺すような冷気が容赦なく女を叩き付けた。

真つ暗である為、よくは判らないが、足元には数？に及ぶ雪が降り積もっているのは明白であった。

女の名はイザリアといい、この辺りではそこそこの知れた傭兵である。

物心ついた頃より親はなく、養母たるリリア・・・母の妹の話によると、一家旅行に行った先で暴漢に襲われ両親ともに死んだのだという。

そんな生い立ちもあるにも拘わらず、彼女の選んだ仕事は血を生業としているのだから、皮肉なものだと、養母はよく笑ったものだ。だが、そんな悲劇があつた為か養母は昔から、剣術を女の身であるイザリアに容赦なく教え込んだのは彼女自身でもある。

それは、今度こそなくてしてなるものか、という気概があつたのではなかるうかと思うからこそ、イザリアは文句も言わず、剣術を日々磨いたのだ。

気が付けば、この辺りで自分に敵う者はいなくなっており、逆に女の子らしい事などまるきりして来なかったイザリアは自分が生きる為に選んだ職種が傭兵であつたのは、ある意味必然のようでもあり、同時に茶番のようにも思えてくる。

悴んだ手を外套のポケットに突っ込むと、僅かなだが、温かいような気がした。

少なくとも、凍てつくような風を凌ぐのに役には立っている。

吐く息は白く、足元を覆う雪に足を取られながら進んだ。ブーツを履いているにも関わらず、感覚が麻痺してしまふ程だ。

子共の頃であれば、多少なりとも楽しめたかも知れないが、今はこれらが只の厄介事にしか見えない。

今日は本当に厄日だった。

自分を良い男と勘違いした男が、イザリアに言いよって来たのだ。最初の内は依頼主の息子であったから、無下にする事も出来ず、のらりくらりと・・・本来不得手なであるが、それでも、なけなしの理性を纏って逃げていたイザリアであったが、つい勢い余って、馬鹿息子を蹴り飛ばしてしまった。

堪忍袋の緒が切れたともいう。

正直、溜飲が下がったが、懐に入る予定の物も同時におじゃんになってしまうたのも事実だ。

・・・・・・・・恨めしいが、仕方がない。

そう腹を括ったイザリアは、寒々しい夜道を抜け、我が家へ足を速めようと、ふと、歩みを止め、目を細めた。

行く先に、淡い光が見えたからだ。

不可解、以外の何者でも、ないというのに、気が付けば、ふらふらと、無用心だということさえも、頭になく、イザリアは光の元へと歩みを進めた。

目覚め

コンコンコン、と規則的な音がし、イザリアは再び微睡みに落ちそうになる。

僅かに開いたら瞼の隙間から、眩い光の粒が顔にあたって落ちた。ゆるりゆるり、としたこの暖かな空間が、イザリアは好きだ。

ゆらりゆらりと、イザリアの頭が揺れた。

母親の胎内にいるよな一時に、酔いしれる為に、イザリアは本格的な眠りに落ちようと、瞼を閉じた。

途端、傾ぎはじめた体は、猛々しい音と共に、ぴたりと動きを止めた。

「ざけんな！お前このまま寝たら、死ぬぞ。マジで打ち所悪くて！……！」

重たい瞼を、開くと翡翠の瞳が心配そうに、イザリアを覗き込んでいた。漆黒の髪は悪魔である証であるが、片親から受け継いだであろう翡翠の瞳が純血の悪魔である事を否定する。純血の悪魔は、瞳も闇色であるから。

そして、混血の悪魔である可能性すら否定する。

混血児は、13歳を迎えるまでは、悪魔の色を持たずに生まれて来るからだ。

迎えたが最後、彼等は深紅の瞳と漆黒の髪、そして漆黒の翼を背中に生やし、覚醒するのだ。悪魔として。

「寝てるのか？まだ……。」

不安そうに、覗き込む青年を見ながら、まだ、寝惚けた頭のまま口を開いた。

「美人は寝起きが悪いと相場が決まっている。」

そう言つと、心底呆れたような顔を青年はした。まるで心配して損したとも言わんばかりに。

「失礼な男だな。事実じゃないか。」

にやり、と不敵に笑うイザリアに青年はため息を吐いた。

この青年こそ、あの雪の中の光の正体である。正確には、この青年を守る様に、幾重にも、魔法が施されていたのだが……。

あの頃は、小さな手足と、愛らしい容姿の赤子出会った筈なのに、いつの間にかやら、妙に世話焼きババアのような青年に育った。

守銭奴の如く家計簿を付け、今では壊滅的なイザリアの手料理よ、はるかに旨い物を作り、家計をやりくりする姿はまるで、主婦の鑑のようである。

どこに出しても、恥ずかしくない子供に、成長したとイザリアは密かに思っているが、驚く事にこんな素晴らしい娘……いや、息子に成長した青年と出会って、まだ1年しか経っていないというのだから。

だが、イザリアはそれを不安にも不思議にも思っていないかった。

理由は、彼女が傭兵を生業にして来た為、目になっているからだ。

色んな異端児を。そして彼女は露ほど疑っていないのだ。腹を痛めて産んだ子ではないが、彼女にとって彼はいいとおいしい息子に他ならない。

例え、人間ではなくとも。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3626z/>

零

2012年1月14日01時50分発行